

部会における主な意見

【まちづくり部会】

項目	主な意見	対 応
区のイベント実施と広報、公園施設の管理について	・鶴見緑地を活用して、区主催で多くのイベントが実施されていることがわかった。 ・参加者をより増やすための広報は大事。 ・鶴見緑地内のトイレや時計を補修し、イベント参加者が気持ち良く使い帰れる施設管理も重要。	・今後も魅力的なイベントを企画開催し、より多くの参加を得られるよう、さまざまな広報媒体を活用して、情報や魅力の発信に努めていく。 ・これまでの区政会議でのご意見により、鶴見緑地内のトイレの清掃や設備等の改善も図られている。今後も、鶴見緑地の管理部署と、イベント開催の連携だけでなく公園施設の維持管理について協議や働きかけを行っていく。
子ども対象イベントの募集定員について	・子どものイベント参加は、鶴見区に愛着を持つことにつながる。募集定員を可能な限り増やしてほしい。	・イベント実施にあたり、参加者の安全面を十分考慮した上で、参加機会をどのような形で増やしているのか、検討や調整を行っていく。
小学校と連携したイベント実施について	・小学校のクラス全員を招待するなど、学校と連携してイベントを実施しても良いのでは。	・イベントを企画する中で、学校側と協議し、連携可能であればそのようなイベントも開催していきたい。

項目	主な意見	対応
新たな担い手の確保について	・町会役員をしているが、なり手がいない ・ボランティアに興味を持っている人は増えてきているが、地域活動に踏み出すきっかけが少ない。自分が興味を持ったところから、ズルズル引き込まれる魅力が必要 ・イベントでの声かけ等で地道に募ることが必要。 ・子どもを対象の活動を行えば、子育て層も参加してもらえる。	・地域情報を取得し共有するため各地域へ積極的に出向く。 ・地域の魅力が伝わる広報の作成支援を行う。
地域活動協議会補助金について	・食事サービスやふれあい喫茶の領収書等がだんだんと細かくなってきており、書類作成が複雑。会計担当者も次年度から引き受けたくないと言う人も出てきている。	・補助金申請にかかる書類作成については、地域の負担が少しでも軽減されるよう創意工夫に努める。
窓口サービス等について	・区役所の窓口でスムーズに手続きができているが、星なしという評価になっているのはなぜか。 ・予防接種の会場変更の案内がなく、利用者の怒りをかっていた。星がどうというより窓口に来る人に対する愛情があるかどうかを決め手になるのではないか。 ・地域に保健師等が来ているので、事業運営がやりやすくなった。	・窓口サービスにバラつきがあることが低い評価につながっており、底上げを図るため、接遇研修や実地指導を行っている。また、案内表示等の改善も行っている。 ・さまざまなニーズに合わせて、できるだけきめ細かな対応を行っていく。

部会における主な意見

【こども教育部会】

項目	主な意見	対 応
児童虐待防止啓発について（１）	・虐待通報の必要性は理解しているが、プライバシーや違った場合を考えると、通報をためらうことがある。客観的に虐待と分かるサインや、具体的状況の例示があれば通報もしやすくなると思う。 ・「虐待」ではなく、もっと柔らかい言葉で啓発するのもよいのではないか。 ・児童虐待防止啓発には、虐待に至らないように啓発する事前広報と、虐待が疑われる子どもがいたら通報する事後広報があり、区役所は事後広報を中心に啓発されているようだが、事前広報も大切だと思うので、もう少し、力をいれてほしい。	・通報いただくことで、専門的相談につながることも可能となるため、法律にもあるように、虐待を疑われた場合は通報していただきたいと考えている。 啓発チラシなどには具体的事例などを例示し、啓発活動を実施している。今後は、広報紙を含め啓発することで、通報につなげられるように努めていく。 ・保護者の育児に対する不安感や負担感の積み重ねが虐待の要因の一つであるとの認識から、その軽減・解消の取組みとして、母子手帳発行時の妊婦面接の際や乳幼児健診実施時などに支援が必要と予想される保護者に対して、必要に応じて、育児相談や発達相談（専門相談）につなげるとともに、子育てに関する情報や相談場所等を記載したチラシを配布し、情報提供を行っている。その他、「愛 Love こどもフェスタ」の開催等、子育て支援事業にも取り組んでいる。 今後は、よりわかりやすい広報周知に努めていく。

項目	主な意見	対 応
児童虐待防止啓発について（２）	・通報窓口が 24 時間体制なのは素晴らしいと思うが、まだまだ区民に浸透していないと感じている。広報紙やチラシだけでなく、地域の掲示板の活用など、広報周知方法をわかりやすくしてはどうか。	・通報促進の広報の際には、必ず、24 時間対応であることは記載しているが、より浸透するように、広報紙やポスター等、広報手法も含めてより効果的な方法を検討していく。
待機児童の解消について	・入所保留児のデータだけでなく、全在園児のデータを比較することで、入所保留の割合や、入所保留児の地域別の分布や、保育所の少ない地域などもわかると思うが、区役所はどういった考え方で新規の保育所の選定をしているのか教えてほしい。	・新規募集の選定に関しては、毎年、入所保留児童の発生している状況を精査し、合わせて、今後の保育の需要も想定し、こども青少年局と協議のうえ、決定している。

項目	主な意見	対 応
青少年「夢・未来」講座について	・より多くの子どもが気軽に参加できるよう、回数を増やしたり、緑地などの恵まれた施設を活用したり、地域も巻き込んだようなものなど、目新しさもあっているのではないかな。 ・子どもに何を伝えたいかという教育目標と、子どもが何を力として得るのかの獲得目標があり、双方をつなぐものがモチベーションであると考え。モチベーションがアップするように、時期的な設定等、両方の視点から検討してはどうか。 ・CSR 活動（企業の社会的責任）を念頭に置いている企業も増えており、そこに働きかけるアプローチにより、さらに子どもたちの興味をかきたてる授業をする企業も出てくるのではないかな。	・毎回のアンケートにより意見を聞いているが、授業の一環として実施している中で、どんな事ができるのか、できればお知恵も拝借しながら進めたい。 ・参加する子どもの目線や、獲得目標といった点についても引続き視野に入れ検討していきたいので、アドバイスもお願いしたい。 ・学校で子どもたちのキャリア教育に取り組む中、企業の情報も収集しながら、学校のカリキュラムに合った授業をしてもらえる企業とのマッチングを行っている。現在 8 社になり通算 40 回程度の出前授業をする予定。評判のいい企業の授業は、学校からも手があがる状態。いい授業をしてもらえそうな企業があれば教えていただきたい。
異文化交流事業について	・言葉の問題が入ってくると、なかなか参加しにくい子どももあるのでは。何か工夫をすればいいのでは。	・日本語の堪能な外国人講師によって、子どもたちとコミュニケーションを取れるような工夫をする中で異文化に興味を持ってもらえるように企画している。毎月一回開催し、連続して参加している子どももいる。アンケートで内容や講師についての意見も聞き、来年度に反映させていきたい。

項目	主な意見	対 応
英語によるスピーチコンテストについて	・英語スピーチコンテストは、それだけを目的とするのではなく、前段階から英語に触れるプログラムに参加した子どもが、最終的な目標として何かのプレゼンができる場があるという形を取ると、教師の負担も軽減されるのではないか。 ・英語に興味を持った子どもが高校に進んでから留学したいとの希望を持った場合、区として何か支援することは考えられないか。 以前、大阪市の PTA から、中学生とともにオーストラリアで 2 週間滞在した経験では、その間、子どもたちはコミュニケーションの取り方も自然と身につけ、成長が著しかった。費用の問題等大変ではあるが、おいおいと考えていただけたらと思うが。	・次年度は、スピーチコンテストだけにこだわるのではなく、英語圏からの留学生との交流事業を実施し、料理や散策、UNEP で国連の話を聞く等のプログラムを実施し、コミュニケーションの上達した子どもに英語でプレゼンをしてもらうような企画も検討していきたいと考えており、委員にもご相談させていただきたい。 ・費用の問題や、対象者をどう選択するかなど難しい点があり、慎重に考えなくてはならないと思う。
学校、地域、保護者の教育に対するニーズを把握する仕組みについて	・具体的取組に記載されている「区政会議の部会 3 回、教育行政連絡会 6 回、学校協議会 60 回」という書き方は区役所の目線であり、学校や保護者の目線からは、「3 回、3 回、3 回」となるのではないか。 ・大人の委員の意見のみでなく、次世代を担う高校生に集まってもらい、意見を聞く機会を設け、鶴見区に関心を持ってもらえることができないものか。 ただ、事前に会議に臨む姿勢についての教師の指導も必要であるし、また、区内の高校にも他区からの通学生もいる。それらの課題を整理し手順を踏んでいかねばならないと思う。	・表現については、ご指摘の通りであるため修正する。 ・昨年も中学生との意見交換会を実施し、斬新な意見も出た。高校生などいろんな世代の声をどう吸収するのも検討していきたい。

部会における主な意見

【防犯・防災部会】

項目	主な意見	対 応
放置自転車対策について	・現在の駐輪場マップは公設置の駐輪場のみ紹介をしているが、放置自転車の対策に向けては、民間設置の駐輪場も紹介すべき。	・民間駐輪場の場所の把握や掲載方法など、これから検討をしていきたい。
交通安全対策について	・スケアードストレート学習について、インパクトがあり、効果は大きいと思うのでよりたくさんの人が見れる場での実施を。 ・高齢者への交通安全研修が年1回では少ないのでは。内容も、事故の起きやすい夕暮れ時に体験型で行うなどインパクトのあるものを行ってはどうか。	・開催可能な場所については一定条件があり、限られるところもあるが、他の事業と組み合わせるなどして多くの参加をいただけるよう検討していきたい。 ・交通安全対策については、警察と連携し取り組んでいる。高齢者の方へは、鶴見区交通事故をなくす運動推進本部として年1回研修を実施しているが、鶴見警察署において、ふれあい喫茶などの場を通じ全地域で研修を行っているところです。研修の内容については、より効果の上がるものとなるよう警察と連携し検討していきたい。
防犯カメラの設置について	・設置場所について、地域希望のみではなく防犯を専門としている事業所等を使い、調査をするなど効果的な配置の検討をしてはどうか。	・これまでの防犯カメラ設置状況を検証し、街頭犯罪発生状況のデータを参考に、効果的な場所への設置について検討していきたい。

項目	主な意見	対 応
防災訓練等について	・各地域が実施している防災訓練について、継続していく中でマンネリ化しないよう、区のサポートが必要。	・地域状況も踏まえながら、訓練内容等について引き続き助言・サポートを行っていきたい。
区震災訓練等について	・つるみんピックについて、防災リーダーの励みとなるよう、一般参加者も応援できる仕組づくりを。	・体験参加型の安全・安心フェスタと同日に開催し、来場者が見学、応援できるよう取り組んだ。より多くの来場者が訪れるよう工夫をしていきたい。
種花事業花づくり広場の複数拠点化について	区北部から今津にある花づくり広場へ行くには、遠く通行も危険な箇所がある。この状況から、新たに鶴見緑地においても花づくり広場を設置する提案が区からあったが、ぜひ進めてほしい。	種花活動のボランティアの負担を軽減し、活動しやすい環境づくりのため、ボランティアの方々並びに関係部局等と調整して、花づくり広場の複数拠点化に取り組む。

部会における主な意見

【保健福祉部会】

項目	主な意見	対 応
ふれあいフェスタについて	・地域、特につなげ隊やふれあい員さんとの連携をどのように考えているか。また、フェスタ実行委員会にも関わってもらってはどうか。	・フェスタ実行委員会で話し合いを持ち、必要に応じて、つなげ隊やふれあい員さんにも参加や協力等を依頼していきたい。
住民主体の地域福祉ネットワーク推進事業の推進について	・区の将来像を定めて取り組む必要があり、ビジョンを整理したほうがわかりやすいのではないかな。 - 福祉施策の中心、軸足となっていくものは何か。 - 重点的な取り組みが必要ではないかな。 ・コミュニティソーシャルワーカーを別に置くのか。 ・つなげ隊（ネットワーク推進員）への補助の整理がされ、わかりやすくなっている。 ・コミュニティソーシャルワーカーは専門的な技能はもちろん地域と協働していく営業力等、かなりのスキルを持った人材が必要ではないかな。	・平成 27 年 3 月に鶴見区保健福祉ビジョンを策定し、施策を総合的に進めていく中で、平成 28 年度は、特に、高齢者施策に重点を置いた地域福祉ネットワーク推進事業に力を注いでいく。 ・今後の取り組みとして、コミュニティソーシャルワーカーの新たな配置、つなげ隊の拡充を図り、また、有償ボランティア事業やつなげ隊事業等の統合・整理により、地域福祉の推進に向け効果的な事業の展開に取り組んでいく。 ・コミュニティソーシャルワーカーについては、専門的技能や企画力・営業力を兼ね備えた人材の確保に努めていく。

項目	主な意見	対 応
食育の推進について	・ ボランティア団体である食生活改善推進員協議会は、市の補助金があるが、事業の半分を会費で捻出しなければ、会の運営が成り立たないのが現状である。 ・ 食育の普及啓発について、各地域で事業を実施する際の施設の確保が難しい、 ・ 食育の事業は、参加された方が地域への広がりをおねらっているが、まだまだであるので、食育を地域に浸透させる普及啓発の方法は行政と地域で考えていく必要がある。 地域と共有・連携して事業を進めていく必要があるのではないかと。	・ 食育事業実施にあたり、ボランティア団体には、事業経費や精算事務に多大な負担をおかけしている。事業局には、ご意見の状況を伝えて、負担軽減に向けて働きかけを行っていく。 ・ 食育の普及啓発には、地域の施設の代替として、保健福祉センターの栄養指導室を活用して進めていく。 ・ 食育の地域への普及啓発については、さまざまな事業を食生活改善推進員協議会と連携し、地域団体と協働しながら地域に根ざした普及啓発の支援を検討していく。
バスの運行について	・ 区南北のバスの運行本数が少ないという交通問題を区として考えてほしい。課長が関係局へ行ってもらったのは嬉しいが、区長中心に区がまとまって取り組むことで動いていくのではないかと。	・ 担当課長は区を代表して行っており、区として一丸となって要望を行っていく。区独自としての実施は非常に難しい。